

# TOREK 自然農法 ホットニュース

第 133 号 2009.5.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

## 自然のほうじ茶で高熱をのりきる

武蔵野市 黒田康子



昨年 10 月 20 日、高校 2 年の次女が発熱し、頭痛と喉の痛みがあったので、風邪かなと軽く考えていました。ところが、38 度の熱があつという間に 41 度まで上がってしまい、まったく下がる気配もありません。食欲もなく、一日おにぎり一個を食べるのがやっとでした。少しでも食べてほしくて、自然農法のお米でおかゆを作ったり、自然の卵で卵雑炊にしたり、自然薯をとろろにしたり、焼いてお好み焼きのようにしてみたり、自然のさつまいもをスイートポテトにしたり、ありとあらゆる工夫をしました。

ただ、自然のお茶はものすごい量を飲みました。一日 2 リットルは飲んだと思います。ほうじ茶をペットボトルに入れ、ストローをさして、枕元にいつも置いておきました。発熱と体のだるさで起き上がることができなくても、お茶を飲むために体を起こすことはできました。自力で立ち上がれず、話すこともできなくなった娘でしたが、枕元のお茶を飲むときだけは、力が出たような気がします。

発熱は 2 週間ほど続きましたが、その間、自然のお茶だけはずっと飲むことができました。何回か大量の寝汗をかいたあと、熱が下がっていきました。脱水症状もなく、無事に乗り切ることができたのも、自然のほうじ茶をたくさん飲んでいただのおかげだと思います。

無理だと思った 11 月 10 日からの修学旅行にも、娘は楽しく行くことができ、本当に驚きました。

## 今年のお茶摘み！

5 月 9、10 日、静岡県宇佐美と長者が原の 2ヶ所、市川生産グループのお茶摘みが行われ、最高の天気の中、楽しく、たくさんのお茶を摘むことができました。皆様の、自然のお茶を作り続けるという心意気を強く感じ、また、地主さんや製茶工場の方々もとてもいい方で、だからおいしいお茶ができるのだと思います。

上記の黒田さんも助けられたほうじ茶ですが、今回、製茶工場の山下さんから、おもしろい話を聞きました。製茶の方法も一般と違うのだそうです。普通は、150 度に熱した砂と混ぜて焙じるのですが、市川のほうじ茶は、特別な機械で鉄板の上で焙じるのだそうです。この製茶工場のある修善寺の旅館では、昔から、女将が朝のおめざめとして、お客さんのために自分でお煎茶をフライパンなどで炒り、ほうじ茶にしておもてなしをしたそうです。このほうじ茶を再現するため、一年寝かした一番茶のお煎茶を、TOREK 専用の機械で焙じるのだそうです。市販のほうじ茶とは味も香りも違うのは、栽培だけでなく、加工にも真心と工夫がいっぱい詰まっているからなんですね。



宇佐美



5 月 10 日、埼玉県入間市では、三六九会のお茶摘みがありました。よいお天気に恵まれ、大人から子供まで 50 名近くの方が参加し、収量 100 キロ、皆楽しそうにお茶摘みを行いました。

先月から、畑の近くを通る人にも積極的にアピールしようと、「無施肥無農薬栽培」ののぼりを立て、ダイコンのピン実験やホットニュースを並べています。この日は 3 人の通行人が関心を持ち、無施肥無農薬栽培のことを伝えることができました。（編集部）

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX：03-3369-3324 e-mail: [naturefarming@torek.jp](mailto:naturefarming@torek.jp)  
TOREK 活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>

## 自然農法普及の取り組み

渡辺由美さんは長年、ご主人とともに、家庭菜園で無施肥無農薬栽培を実施されるとともに、TOREK 自然農法の頒布会や、農産展などでは、スタッフとして活躍されている、元気いっぱいの奥様です。

渡辺さんは昨年 11 月、TOREK 自然農法勉強会に向かう電車の中で、向かいに立っていた男性が農業関係の本を読んでいることに気づき、自然農法のことをお伝えしたいなと思っていると、ちょうど隣の席が空きました。その方が座られたのをきっかけに、自然農法の話をする、その方は驚いた顔をして、「私もそういうことに興味があり、本や雑誌、講演会などで世の中に知らせていく活動をしています」とのこと。早速 12 月の頒布会にお誘いし、その方は、たくさんの自然の作物、加工品を購入され、2 月 7 日に行う講演会で、自然の作物を紹介したいということになりました。渡辺さんも招待されたその講演会では、600 人の聴衆の前で、自然農法のすばらしさ、作物のおいしさが紹介されました。懇親会では、渡辺さんもマイクを通して、TOREK 自然農法は、岡田茂吉師の自然農法の原理に基づき、「土を尊び、土を愛し、汚さない」を実践した農法です、と発表し、喝采を浴びたそうです。

その後、講演を聞かれた方で、頒布会に来られたり、生産者から自然のものを取り寄せる方もいました。あらためて、私たちが普段購入している自然の作物が、いかに貴重なものであるかを、また、自然農法をもっともっと自信をもって普及していかなければいけないと、強く感じました。（編集部 関谷）



渡辺さんご夫妻

## 無施肥無農薬栽培から学ぶ

愛知県岩倉市 新堀宣治



昨年の農産展をきっかけに「畑がないならまずはプランターからだ！」と思い、プランターに入れる土探しを始めたところ、家のすぐ近くの市民農園に空きがあることが分かり、10 月から 10 坪の土地を借りることができました。

そして、畑を通してとても勉強になったことがあります。それは「時期の大切さ」と「無施肥無農薬栽培の素晴らしさ」です。

ハクサイは 10 月に種を蒔いたのでは時期が遅いようなので、とりあえずプランターで芽出しをして、10 月になったら定植することにしました。そして 10 月に定植したとき、まだ種が余っていたので、9 月に蒔いたものと比較してみようと思い、畑に直蒔きました。結果は、9 月に蒔いたものは順調に、とても立派に育ったのですが、10 月に蒔いたものは育ちきらずに、春を迎え、とう立ちしてしまっただけです。数週間の差の重みを感じました。

また、同じ並びの畑の方が、私たちのハクサイを見てビックリしていました。その方は何年もその場所で作物を作られていて、ハクサイも何回もチャレンジをしたそうなのですが、毎年毎年葉が虫に喰われ、レース状になってしまうために、あきらめたそうなのです。虫がわく原因は肥料だということを実感する出来事でした。

せっかく借りた畑だったので、岐阜から愛知への引っ越しにより返すことになり、愛知で畑を探したところ、知り合いから、100 坪の畑を好きなだけ使っていとの話があり、新たな地でまた色々な発見をして学んでいきたいと思っています。そして、まだこの農法を知らない方へお伝えしていけるようにがんばりたいです。



## おしらせ



自然農法頒布会	6 月 13 日 (土)	東中野会場	10:00 ~ 15:00 (売切次第終了)
	6 月 24 日 (水)	鎌ヶ谷会場	11:00 ~ 15:00 "
<b>3 周年</b>	7 月 17 日 (金)	"	10:30 ~ 15:00 "
自然農法勉強会	5 月 27 日 (水)	昼の部 10:30 ~ 夜の部 19:00 ~	(別院講堂)

## 無施肥無農薬栽培物の販売予定

6 月 3 日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

きしま平自然農産：黒豆の納豆、黒豆のきなこ、きのこめし  
市川生産グループ：新茶、みかんジュース（ピン入り・コップ売り）  
中島農園：キヌサヤ、ハウレンソウ、カブ、チンゲンサイ、コマツナ  
長柄山自然農園：卵 飯塚農園：みそ（500g 1,100 円）  
よしたい農園：白米 富田善嗣さん：白米  
ジョリフィーユ：シュークリーム、イチゴロール、カスタードプリン、マドレーヌ

